

令和7年度 戸坂学区まちづくり運営委員会 事業報告書

1 令和7年度の目標に対する事業実施の成果

戸坂学区まちづくり運営委員会の地域での認知度を高めた。
ホームページやデジタル掲示板「ためまっぷ」を活用した情報発信等の広報活動に取り組んだ。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	戸坂学区夏まつり	(7)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年6月1日 ～ 令和7年8月3日	
(2) 実施場所	戸坂小学校グラウンド	
(3) 参加者数	約 3,000 人	
(4) 主催団体	戸坂学区まちづくり運営委員会	
4 取組内容	令和7年8月2日(土)、地域住民の交流及び伝統文化の継承を目的として夏まつりを開催した。開催に当たっては、チラシ等により広報を行った。盆踊りや段物、太鼓、屋台などの伝統的な催しを実施し、世代を超えた交流の場を創出することができた。 また、公民館公式キャラクター「へさまろ」を起用することで、親しみやすく参加しやすい雰囲気づくりを図った。 さらに、LMOの構成団体に出店を依頼し、幅広い世代の参加促進につなげた。安全面においては、各町内から3名程度の有志を募り、見回りを実施したことで、安全・安心な運営体制のもと、夏まつりを開催することができた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	地域住民の交流促進と地域文化の継承を目的に、こどもから高齢者まで楽しめる夏祭りを開催した。	
(2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	本事業の実施により、地域のこどもダンスチームの参加を契機として若い世代の来場者が大幅に増加した。また、飲食出店数の拡充により、これまで以上に多世代が交流する活気ある場を創出することができた。これらの取組により、地域行事としての魅力向上と継続的な参加意欲の醸成につながった。一方で、会場となった運動場における砂埃への対策については、今後の運営改善に向けた検討課題として整理された。	

1 事業名	夏休み子ども体験の支援	(7)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(5) 地域のこども及び子育て世帯への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年7月28日	
(2) 実施場所	戸坂公民館	
(3) 参加者数	38人	
(4) 主催団体	へさかつ子クラブ	
4 取組内容	へさかつ子クラブでは、夏休み期間中、公民館の一室を活用し、小学生の居場所づくりを目的とした活動を実施した。その一環として、7月28日に陶芸教室を開催する事業を支援した。 また、公民館及び戸坂小学校へチラシを配布し、広く参加者の募集を行った。 こどもたちは、お皿や箸置きなどを粘土から成形し、スタンプで模様を付ける体験を行うことができた。作品の焼成については、専門の陶芸教室へ依頼し、夏休み期間中に参加児童へ完成品を手渡すことができた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	こどもの体験活動として、陶芸教室を開催する。土からものを形成する直接体験を通して、ものづくりの楽しさや、こども同士の交流を図り、安心して過ごせる場所づくりを目指した。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	本事業の実施により、へさかつ子クラブの活動内容を地域に広く周知することができ、クラブの認知度向上につながった。また、夏休み期間中にこどもたちが安心して過ごせる居場所を提供することで、保護者にとっても安心感のある環境づくりに寄与した。 さらに、陶芸体験を通じてこどもたちの主体的な活動や交流が促進され、居場所としての魅力向上と継続的な参加意欲の醸成につながった。	

1 事業名	敬老会	(7)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年8月1日 ～ 令和7年9月7日	
(2) 実施場所	戸坂小学校体育館	
(3) 参加者数	209 人	
(4) 主催団体	戸坂学区まちづくり運営委員会	
4 取組内容	令和7年9月6日(日)10時から12時30分まで、敬老会を開催した。対象は地域住民の75歳以上の方々とし、来賓による祝辞やデイサービスあんしん鼓笛隊による演奏により祝宴を盛り上げた。また、参加者へは記念品として紅白饅頭を贈呈した。 さらに、ゲストとして南 一誠氏を招き、コンサートを開催するとともに、参加者全員で「広島天国体操」を実施し、心身の健康づくりの機会とした。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	高齢者への感謝の気持ちを伝えるとともに、交流の場を通じて心身の健康づくりと地域のつながりを深めることを目的とした。	
(2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	本事業の実施により、高齢者へ日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに、参加者同士の交流の場を提供することで、心身の健康づくりの促進につながった。 また、式典やコンサート、体操を通じて自然なコミュニケーションが生まれ、地域住民同士のつながりの強化と支え合いの意識の醸成に寄与した。	

1 事業名	地域でつくる防災・減災フェア	(7)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年6月1日 ～ 令和7年8月3日	
(2) 実施場所	広島市戸坂公民館	
(3) 参加者数	222 人	
(4) 主催団体	戸坂学区まちづくり運営委員会	
協力団体	戸坂学区自主防災会連合会、戸坂防災士会、女性会、へさかつ子クラブ、町内会、戸坂学区体育協会	
4 取組内容	令和8年3月8日（日）に、子育て世代の視点を取り入れた防災・減災フェアを開催した。6月頃から、構成団体や町内会の有志、防災士約20名を募り、5回のワークショップを経て企画を検討した。その結果、「防災博士決定〇×クイズ」、「非常食の試食」、「乳幼児家庭の防災」「ポータブルトイレの使用体験」、「ゆれたマット体験」、「防災タイムトライアル」の6つの体験コーナーを協働で企画・実施した。 開催に当たっては、チラシを作成し、広報を行った。また、構成団体に加え、若者ボランティア18名が参加し、運営に携わった。これにより、若い世代の防災意識の向上が図られるとともに、地域全体の防災力の向上につながった。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	地域住民が災害に備える力を身につけるため防災フェアを実施し、特に子育て世代の視点を取り入れて、助け合える地域づくりを目指した。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	若い世代の主体的な参画を促すとともに、防災への関心と理解の向上が図られた。さらに、子育て世代を含む多様な住民が実践的に学ぶ機会となり、家庭での備えや行動の見直しにつながるなど、地域全体の防災力向上に大きく寄与した。	

1 事業名	戸坂のまちをともにきれいに！ごみゼロ・クリーンキャンペーン	(7)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(7) 地域の生活環境の整備又は美化に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年12月1日から令和8年3月31日	
(2) 実施場所	戸坂学区全域	
(3) 参加者数	238人	
(4) 主催団体 協力団体	戸坂学区まちづくり運営委員会 戸坂学区公衆衛生推進協議会	
4 取組内容	令和8年3月8日（日）に、戸坂学区の全住民を対象とした清掃イベントを実施した。実施にあたっては、公衛協の協力のもと、町内への掲示により周知を図るとともに、戸坂公民館の協力を得て「公民館だより」へ掲載し、新聞折り込みにより地域住民へ広く周知した。 また、「戸坂ともいきためまっぷ」を活用した広報活動を展開し、より多くの住民の参加促進につなげた。さらに、各町内へゴミ袋を配布するとともに、希望する町内へは軍手を配布し、円滑な清掃活動の実施を支援した。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	町内ごとの清掃活動を学区全体へ広げ、住民の参加とつながりを促し、きれいで安全なまちづくりへの意識を高めることを目的とした。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	・ 地域住民の参加により、学区内の環境美化が推進された。 ・ 清掃活動を通じて住民同士の交流が生まれ、地域のつながりの強化につながった。 ・ 多様な広報手段の活用により、幅広い世代への周知と参加促進が図られた。 ・ 地域全体で清掃活動に取り組むことで、防犯・防災意識の向上が図られ、安心・安全なまちづくりの推進につながった。	

1 事業名	戸坂ともいきためまっぷ	(7)事業中(6)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)～(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	戸坂学区	
(3) 参加者数	約 1,290 人(3月時点ユーザー数)	
(4) 主催団体	戸坂学区まちづくり運営委員会	
4 取組内容	デジタル掲示板「ためまっぷ」を活用し、7月よりトライアルとして「戸坂ともいきためまっぷ」の運用を開始した。地域住民への周知及びアプリ登録の促進を目的として、夏まつりや戸坂公民館まつりにおいて広報ブースを設置し、公民館公式キャラクター「へさまろ」を活用したチラシやグッズを作成・配布した。 また、「戸坂ともいきネット」の協力を得て、「ためまっぷ」への期待や課題について意見交換を行い、今後の運用に向けた方向性を共有した。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	デジタル掲示板「ためまっぷ」を活用し、戸坂ともいきためまっぷを運用することで、幅広い世代への情報発信を目指す。そのために、まず情報サイトがあることを地域住民へ周知し、スマホなどへアプリを登録していただき利用の普及を図った。	
(2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。)	本事業の実施により、「戸坂ともいきためまっぷ」の周知が進み、地域情報への関心の高まりとともに、百歳体操への参加機会の増加など外出機会の創出につながった。また、広報ブースの設置やチラシ・グッズの配布により、アプリ登録のきっかけづくりと認知度向上が図られた。さらに、関係団体との意見交換を通じて、今後の運用に向けた課題や方向性を共有することができた。一方で、掲載や活用に関する周知は十分とはいえず、構成団体や地域住民への利用促進については引き続き取り組む必要があることが明らかとなった。	

1 事業名	戸坂ともいきタクシーの運行	(7)事業中(7)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	戸坂中学校校区（運行区域）	
(3) 参加者数	延べ 6,000 人	
(4) 主催団体	戸坂ともいきタクシー運営協議会	
4 取組内容	坂道の多い本地域においては、高齢化の進行に伴い日常の移動が困難な住民が増加していることから、その課題解消を目的として「戸坂ともいきタクシー」を運行した。継続的な運行には利用者の増加が不可欠であるため、まずは地域住民への認知向上に取り組んだ。具体的には、利用促進を目的としたチラシを作成し、地域住民へ広く配布するとともに、ホームページや「戸坂ともいきためまっぷ」を活用した広報活動を実施した。 また、商店・医療機関・企業等から協賛金を募り、広報誌への掲載等の特典を提供することで、持続的な支援体制の構築を図った。 協賛金の協力を得た企業に対しては、ステッカーを配布した。さらに、乗降ポイントの看板やテントの整備を行い、利用しやすい環境の整備に努めた。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	本事業は、地域の実情に応じた乗合いタクシーの運行により生活交通を確保し、高齢者を含むすべての住民が安心して外出できる環境を整えることで、戸坂学区における地域福祉の向上を図ることを目的とした。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	・ 戸坂ともいきタクシーの周知が進み、移動手段としての認知度向上につながった。 ・ 移動手段の確保により、高齢者の外出機会の創出や生活の利便性向上に寄与した。 ・ 広報活動や協賛募集を通じて、地域の商店・医療機関・企業との連携が強化され、地域ぐるみで支える体制の構築につながった。	

3 自主財源で実施した事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	実施内容
	なし		